

高知市市民活動サポートセンター季刊誌

えぬびい! Oh!

2017 夏

Vol.66

▶ 2P~3P

目指すは近所のおばちゃん!
暖かくおいしいごはんを提供するこども食堂

▶ 4P~5P

U19 こどものまち全国サミットin ヨコハマ

▶ 6P

「おびさんマルシェ」で商店街を元気に

▶ 7P

高知の街で、食べながら飲みながら社会貢献団体を応援



目指すは近所のおばちゃん!

暖かくおいしいごはんを提供するこども食堂

皆さんはこども食堂を知っていますか。

こども食堂とは、家庭で十分な食事を取れないこどもに安価または無償で食事を提供する活動です。活動日は様々で月に1回のところや週に1回のところなど、その団体によりまちまちです。

この度、高知県南国市で行われている「こめんこどもクッキング」に取材に行き、調理のお手伝いもしてきました。

■料理中…その間に子どもたちは

この「こめんこどもクッキング」は10時オープンで、14時までやっています。まず最初に朝礼があり、副代表の植木千夏つえきちなつさんが、スタッフと当日のボランティアに連絡事項を伝えます。

10時頃から、「こめんこどもクッキング」のスタッフと当日のボランティアの人が、料理を作り始めます。食材はその日に近所の方々から頂いたものを使います。そのため、献立はチーフがその場で考えます。

10時半を過ぎたあたりに、こどもたちが集まってきました。外で遊ぶ子や中で遊ぶ子、料理をする子。みんな好きなことをして過ごします。



▲折り紙でランドセルを折り、中に入れるノートなども作っていました。

外には小さな公園があり、こどもたちはボールで遊んだり、虫を捕まえたりしていました。ボランティアのお兄さん、お姉さんと一緒に元気いっぱい遊んでいました。

こどもが料理をするときは、傍らに2人大人がついています。こどもは大人が料理するところをみて、真似して料理をします。危ないときは手を貸しますが、基本的には優しく見守っています。スタッフの1人は、

「自分の子だったら厳しくしてしまうけど、よその子だからこそ教え方も変わってくる」と話してくれました。

■おいしいお昼ごはん

料理が出来上がるとテーブルと椅子を用意して、大人が配膳をします。こどもたちは自分の好きなところに座ります。ときには、ボランティアのお兄さんお姉さんを誘って座ることもあります。

食べる前にスタッフが当日の献立名と食材を提供してく

れた方の名前を紹介し

ます。この紹介で、この食事が出来

るまでに関わってくれたみな

さんのことを考えて食事が

できるので



▲4月の献立。山菜のてんぷら、しゃも鍋、豚と玉ねぎのすき焼き風、大根の煮物、キャベツの浅漬け。

はないかと思いました。

こども1人分のごはんの量は一口大です。なぜなら、全部食べなければならぬというプレッシャーを感じ、食べることがしんどくなってしまふからです。もっと食べたい子はおかわりもできます。

「全部は食べられなかったけど、おいしかったよ」と話すこどもの言葉からは感謝の気持ちがうかがえました。

ごはんを食べた後は、お土産にパン屋さんのパンやお菓子などを自分の分だけでなく兄弟の分も持って帰ります。



▲みんな笑顔で楽しくお昼ごはんを食べています。

■ こともたちの視線を釘付けにしたゲスト

「ごめん子どもクッキング」では、時々ゲストを呼んでいます。5月のゲストは、サンプラザ鮮魚部の百田^{もた}さんと高知工科大学のジャグリング部の皆さん。百田さんは大きなシイラをこともたちの前でさばいてくれました。また、シイラはおいしい南蛮漬けになりました。ジャグリングシヨ^もーが始まるとこともたちは手拍子をして、



▲百田さんの鮮やかな包丁さばき。

「がんばれー」
と応援をしていました。たくさんのボールを操る姿にこともたちの目は釘付けになりました。お昼ごはんを食べ終わり、いつも早く帰る子も工科大のお兄さんと一緒にジャグリングをしていました。これを見たスタッフは、「毎回来て欲しいねえ」と話していました。

こうした貴重な経験ができるのは、とても良いなと思いました。

■ 白熱する話し合い

こともたちが帰った後はスタッフとボランティアで話し合いをします。感想と気づいたことを一人ずつ述べます。

「こういうものが欲しい」

「じゃあ次の時にはこうしてみようか」

「こともたちにこんな食べ物を食べさせちゃりたいねえ」

等の意見ができました。特別なイベントの献立を決める時は白熱していました。とても濃い話し合いでした。

■ 目指すは近所のおばちゃん

「ごめん子どもクッキング」の副代表の植木さんは、

「近所のおばちゃんのような存在でありたい」

と話してくれました。植木さんが幼い頃、近所におじちゃんとおばちゃんが住んでいたそうです。近所のおじちゃんおばちゃんは、話を聞いてくれたり愚痴に付き合ってくれたり一緒にご飯を食べたり。植木さんをまるで本当の子どものように可愛がってくれたといいます。植木さんの目指す近所のおばちゃんとは、そんな近所のおじちゃん、おばちゃんのような存在なのだろうと思います。

植木さんはこの「ごめん子どもクッキング」を、

「ごどもが自分から来たいなと思える、居心地の良い居場所にした」と

と考えています。

■ 自分にできることをやっているだけ

スタッフの方にとって「ごめん子どもクッキング」は生きがい。

「大人数での食事は暖かさがある。食事は食べる人も作った人も幸せになるものなんだなあ」といつも考えます

「私たちは自分たちができることをやっている

だけです。だから無理がなくやっていくことができる」

と言っていました。

■ 最後に

今回私は2回「ごめん子どもクッキング」で取材とお手伝いをしました。取材が終わったときにスタッフの方が

「料理でもなんでも自分ができることを無理せずやってね。毎回来れんでも、自分が大丈夫な時にまた来てね」

と言ってくれました。その言葉がとても暖かく嬉しかったです。

スタッフの方々はいつもこともたちを暖かく見守ってくれていて、植木さんの言うように「ごどもたちにとって居心地の良い居場所になっている」と思いました。

(毛利)

ごめん子どもクッキング

【場所】

ごめん町防災コミュニティセンター

【時間】

10時から14時

【料金】

大人 300円 子ども 0円

【開催日】

第3土曜日

【連絡先】

gomen.kodomo.cooking@gmail.com

U19 こどものまち全国サミット in ヨコハマ

～こどもが主体のこどものまちサミット～

5月3日(祝)～4日(祝)、横浜市立大学金沢八景キャンパスのピオーナーホールと野島青少年センターを会場にU19こどものまち全国サミットinヨコハマが開催されました。

今回のサミットは、開催地のミニヨコハマシティをはじめとして全国20以上のこどものまちから、文字通り開催に関わる19歳以下のこどもたち47名と学生13名、大人44名が集まって意見交換を行い、その経験を活かして自分たちのこどものまちを「最高のこどものまちにすること」を目的としています。

高知市で開催されているこどもが運営するまち「※とさつ子タウン」からは、とさつ子タウンのこども市民を2年経験し、現在同実行委員会の副委員長を務める高知県立大学1年生の半田唯衣^{はんだ ゆい}さんが代表で出席しました。

全国こどものまち主催者サミットは、20

07年千葉県佐倉市で初めて開催されてから2016年まで10年間開催されてきました。



▲自己紹介するミニヨコハマからの参加者

その主体はあくまでも主催者である大人で、今回は、こどもが主体で行われる初めてのサミットであることが大きな特徴です。

■ポスターセッション

1日目は、朝8時から展示等の準備が始まり、11時半からお昼を挟んで「お互いのまちをとことん知る」をテーマに、ポスターセッションが行われました。

参加者は、お互いのまちの話を聞きながら、壁に貼られた格子状のポスターに、こどもが黄色大人が緑色の付箋を項目毎に書き出してどんだん貼っていました。

■パネルディスカッション

「こどものまちが私にもたらしたもの」と題して論議を交わしました。

①Q、(昔の記憶を辿りながら)こどものまちでどんなことをやっていた？

A、ドイツのミニミュンヘンに行った。サミットでこどものまちの代表として発表した。

役割	氏名(敬称略)	所属・役職等
パネリスト	みうち あやか 三浦 綾佳	ミニヨコハマシティ初代市長、現小学校教諭
	うつみ ななか 内海奈々花	こどものまちCBT(ちばタウン)初代市長
	かみむら みさと 神村 美里	むさしミニタウン運営経験者、東洋大学国際地域学部4年生
	かなおか かなこ 金岡香菜子	(特非)NPO子どものまち理事長、「ミニさくら」初回市民
	はんた ゆい 半田 唯衣	とさつ子タウン副実行委員長、市民を2年経験
司会	ももさき ゆう 百崎 佑	前ミニヨコハマシティ市長・U24サミット発起人

②Q、こどものまちの経験をどういかしている？、A、何でもチャレンジしてる。人前で話せる。全体が見える。

③Q、こどもと大人の間隔はどうだった？
A、見守る立場にシフトした。引き継ぎたいという気持ちになった。

④Q、こどもとして関わったときと大人スツップとして関わってどう違った？
A、当たり前にあつたこどものまちが大人の努力でできていることが分かった。など

続いて、パネリストに対し会場からの質問が出されそれぞれが真剣に答えました。

⑤Q、こどものまちに関わって良くなかったことは？
A、こどものまちのボランティア活動に理解が得られず恋人と別れた。

⑥Q、大人になって気づいた自分のまちの自慢は？
A、本物の市長の参加や本物の道具が用意してあること。

⑦Q、自分たちのこどものまちは保護者を入れているが他はどうか？
A、会場の都合で大人は排除できない。大人は入れないのでこどもがのびのびやれる。など

最後に、パネラー一人ひとりにこどもたちへのメッセージを語ってもらいました。

「そのままの君が素晴らしい」「楽しんで生きたモン勝ち」「自分たちの可能性を信じて！」「思いっきり遊ぼう」「いろんなことを全力

で

パネルのコメントはどれも、こどものまちを市民として経験したうえで運営に携わっている方々ならではの貴重なものでした。



▲パネルディスカッションの様子
(オレンジTシャツが半田唯衣さん)

■全国こどものまちU19会議+大人

初日の最終は「最高のこどものまちはどんなまち？」をテーマに「ポスターセッションで知った他のこどものまちの良いところ」や「取り入れられる事はどんなところがあるか」「最高のこどものまちにするには何ができるか」などについて、ミニたまゆりを運営する川崎市田園調布学園大学の学生がファシリテーターとして、大人はオブザーバーとして加わり、参加者がグループに分かれて、活発な議論が行われました。

■地域ワークショップ

2日目は、「昨日得た知識から自分のまちに活かせることは何か」について、それぞれのこどものまちで話し合い、新しい仕事や預金の仕組み、選挙や税金の有効活用などの項目が出されました。

■半田唯衣さんの感想

今回U19サミットに参加し、初めて他のこどものまちの方々と交流させてもらい、すごく新鮮でした。

「こどものまち」というテーマは同じであるのに、それぞれのまちにそれぞれの個性があり、「そっちのまちはそうなっちゃうがやー」と驚きながら、たくさん学ばせていただきました。「こどもたちですごい。世の中は可能性であふれてるんだ」と、改めて強く思いました。

たくさん吸収させてもらいながら、とても充実した濃い2日間を過ごさせてもらいました。聞いたお話やいただいたアドバイスを参考に、とさつ子タウンをもっとよりの良いものにしていければ、と思います。ありがとうございました。

■最後に

私が一番感動したのは、2014年に高知で開催された「全国こどものまちサミット2014 inこうち」のこども会議で「大人はこどもに口を出しすぎる。もっと任せて欲しい」と言っていた(当時の)こども市民が、運営する側になって、「大人の気持ちも良く分かる」とパネルディスカッションで感想を述べていた

ことです。

実際とさつ子タウン実行委員会でも、新委員からの意見は、こどもをお客様のように扱い、こどもたちが困らないように様々なサービスをしてはどうかというものが多くみられます。

立ち上げのときから参画している大人の実行委員からは、その度に「手を出しすぎることがこどもの自立を阻害する」という話が出されるといふ攻防が続けられています。

来年2月には大人のサミットが岐阜で開催されます。そのとき、また各地のこどものまちの市民から様々な意見が出てくると思われまます。今回のサミットを踏まえ、全国のこどものまちがどのように変化していくのか楽しみです。

(森岡)



▲「全国こどものまちU19会議+大人」グループに分かれて討議



▲「全国こどものまちU19会議+大人」
横浜市大の三輪教授による討議の取りまとめ

「おびさんマルシェ」で商店街を元気に

～おびさんロードから魅力ある新しい文化を発信！～

おびさんロードから新しい文化を発信したいーそんな思いから2005年に始まった「おびさんマルシェ」（以下マルシェとする）。

高知のおいしい「食」、高知の「アート」を、おびさんロードに集めたおしゃれな市場です。マルシェについて、おびさんロードに店舗を構えマルシェに出店している、植野陶器店の店主、植野能理子^{うゑののりこ}さんにお聞きした。

■発想はヨーロッパの蚤の市

おびさんロードに車両が進入しない時間、東西340mの間に、青、緑、オレンジ等のカラフルなテントで50軒を並べる。日曜市とも違う、フリーマーケットとも違う、ヨーロッパの蚤の市のような新しい「マルシェ（市場）」の誕生です。



▲いつものおびさんロード。公園の石階段は、時に音楽会の舞台となる。

日曜市もマルシェも道路を活用した市場。日曜市には生活の香りがあるが、それに反しマルシェにはフリーマーケットとも違う新しい文化の香りを楽しむ雰囲気がある。マルシェで、新しい高知を見つづけることができるかも。

▼写真は、車両進入禁止のおびさんロードで来客も店主も、ゆったりとコミュニケーションや作家気分を楽しんでいるマルシェの様子色々。▼

■基本は楽しむ

帯屋町アーケードが賑わい、インターネットもスマートフォンもなかった頃、同アーケード内のお店にぶらっと寄るウィンドウショッピングを「帯ブラ」と称していた。まさしくマルシェは現代版「帯ブラ」である。

女子高校生の二人連れが、手作りアクセサリーやシユシユを手に取り、身につけて鏡に映る自分自身を楽しんでいる。ある店は親子連れや子どもが工作で恐竜を手作りしている。また別の店は、脇に机と椅子が置かれ、お客が自由にゲームで遊んでいる。

■ぶらっとマルシェ



またマルシェは日曜市と違って、店主や来客の多くは女性や若者。商品は手芸品のバッグ、手染めのシャツなどハンドメイド雑貨、マルシェにしかない食材、オープンカフェ、イラストレーション、陶芸、アクセサリー等が詰まったお洒落



なアートフリーマーケット。

フリースペースには誰でも何時でも座れるように、テーブルと椅子がセティングされている。友人と、家族と、あるいは一人でも、ゆっくりぶらっとマルシェを楽しめる。

■マルシェで人の流れは変わった？

店先に商品を展示し、マルシェスタート以来来店してきた植野さんは「マルシェがあることで、おびさんロードをより知ってもらえた。また、金高堂書店が帯屋町チェントロ1



階に新店舗をオープンしてからは、書店の紙袋を手にしたマルシェを楽しんでいる人を見かける」と。10年を経過し、人の流れは確かにできてい

(のむ)

マルシェこれからの開催日

9月17日(日)

10月15日(日)

11月12日(日)

12月10日(日)

※雨天時は翌週に延期

開催時間

11時～21時

出店料

1ブース1,500円/日

問合せ先

おびさんマルシェ実行委員会

TEL088-871-6527

高知の街で、食べながら 飲みながら社会貢献団体を応援

飲みもって食べもって「寄付ぎふと」寄付金贈呈式

高知市市民活動サポートセンター事業の一つに、飲みもって食べもって「寄付ぎふと」があります。5月8日に同サポートセンター大会議室で行われた寄付金贈呈式を取材してきました。

■あたらしい寄付のカタチ

飲みもって食べもって「寄付ぎふと」は日常的にある『飲食』に、NPOや社会貢献に取り組む団体への『応援』を乗せた寄付のしくみです。実施協力店が寄付金を含んだ飲食メニュー（寄付つき商品）を提供し、お客様が飲食をする度に寄付が入ります。

■土佐の「おきやく」とコラボ

寄付文化やNPOへの理解を図るために、土佐の「おきやく」のイベントに2011年度から参画し、今年で6回目を迎えました。当初は、寄付つきメニューを提供してくれる飲食店が8店舗でしたが、今年は27企業の飲食店と1イベントに拡がり、一八五、四四〇円の寄付が集まりました。

■寄付金と感謝状の贈呈

贈呈式には、(株)菊寿司、(株)サニーフーズの寿し一貫と和食レストランゆうゆう、(株)グランデールのレストラン&カフェポヌールが出席して、1団体三〇、九〇七円が次の6団体へ贈呈されました。

(1)NPO法人福祉住環境ネットワークこ
うち(2)公社認知症の人と家族の会高知県支部
(3)子育て支援ネットワークるばみみ(4)こ

一番印象に残ったのは、青木さん(フードバ

■感想

「意見交換が
行われました。」



▲意見交換の様子

■意見交換

寄付を受け取ったNPOから寄付金の使
い道を聞きました。「運営費として使いたい」
「イベント費用に」「子供のおやつ費用に」な
ど、有効に使っているようです。また、飲
食店からは、「お客様とのコミュニケーション
が社員の活性化に繋がっている」「継続し
ていくことを目



▲飲食店よりNPO団体へ
寄付金を贈呈



▲各協力店へ感謝状を贈呈

も支援ネットみんなのひろっぱ(5)フードバン
ク高知(6)NPO法人NPO高知市民会議)
また、寄付つきメニューの趣旨に賛同・
協力した飲食店には、ファンドレイジング・
プロジェクトより感謝状が贈られました。



▲贈呈式後の記念撮影

飲みもって 食べもって 「寄付ぎふと」通年協力店

- ①菊寿司(本店・帯屋町店)
- ②ひよっこ寿司
- ③食酔亭もんちゅう
- ④草や
- ⑤TeppanDining ミヤタヤ
- ⑥パール・パッフォーネ
- ⑦八金～やがね～

ンク高知)の「行って良かった、食べて良かつた、払って良かった」と笹岡さん(NPO法人福祉住環境ネットワークこうち)の「みんながハッピーになる取り組み」です。通年、寄付つきメニューを提供している飲食店もあるので、今度行ってみようと思いました。

(浦井)

魔王はだれだ!!

あなたの前に3人の村人があらわれました。

実は「勇者」「魔王」「村人」が1人ずついます。

勇者は本当の事を言い、魔王は嘘の事を言い、村人は本当と嘘を時によって使い分けます。

3人の言う事を聞いて誰が何なのかを見破り、魔王を見つけよう!!

ぼくは
勇者じゃないよ!



ぼくは
村人じゃないな



ぼくは
魔王じゃないね



答えは高知市市民活動サポートセンターのホームページに掲載中。

URL : <http://www.kochi-saposen.net/>

#編集スタッフの

つぶやき



@すずき

スーパーにきゅうりが並ぶ季節。気軽に食べられるから、おやつ代わりに丸ごとポリポリ…。ちなみに私は味噌派です。



@たまき

最近仕事で運転することが多くなった。移動時間の見積りは、一般的な予測時間に30分足す。なぜなら必ず迷うからだ。



@しのみや

運転中、いろんなことを考える。「帰ったら先にやっておこう」と。そして、家に着くと忘れている。50を過ぎた頃から、記憶力が衰えてきた。情けなくなる。



@おおの

機会があれば着物を着ている私ですが、すれ違うお姉さま方の視線が嬉しげで。ありがとうございます。笑

発行

高知市市民活動サポートセンター

企画編集

認定特定非営利活動法人
NPO高知市市民会議 広報部会

〒780-0862 高知市鷹匠町2丁目1-43 高知市たかじょう庁舎2階
月～金/10:00～21:00 土/10:00～18:00(日・祝日は休み)

TEL : 088-820-1540 FAX : 088-820-1665

E-Mail : info@shiminkaigi.org

WEB : <http://www.kochi-saposen.net/>

この冊子は再生紙を使用しています



@宮脇

ノートパソコン携行をやめて、iPad+キーボードでモバイルに。メールとネットと書き物に写真も撮れて、非常に快適。



@有光

最近、腹筋ローラーを買いました。一般的にはキツイと言われますが、めちゃくちゃ楽しいです。笑 ストイックに続けていきたい。



@横田

スズメも巣立ちの時期。上手に飛べないヒナを親スズメ・兄弟スズメと一緒に根気よく見守る。今年もみんな無事巣立って安堵。